



令和2年2月第40号（豚）
東部・北部家畜防疫獣医師会
（公社）千葉県畜産協会
東部家畜保健衛生所
TEL：0475（52）4101
FAX：0475（52）3335
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kh-toubu/index.html>

沖縄県でCSF発生！（国内56例目）

所在地	沖縄県沖縄市
飼養頭数	1,857頭
経緯	2月1日 国内52～55例目の移動制限区域内にあり監視対象となっていた農場において、飼養豚が死亡しているとの通報を受け、立入検査及び精密検査を実施。CSFの疑似患畜と確認。

PED発生情報（18、19例目）

	確定診断日	発生農場	症状
18例目	1月20日	県北東部の1農場 (約1,730頭飼養の繁殖農場)	哺乳豚200頭で黄色水様性下痢。
19例目	1月27日	県北部の1農場 (約3,190頭飼養の一貫農場)	肥育豚20頭で黄色水様性下痢。

食品廃棄物等を原材料とする飼料を豚に給与する場合は加熱処理を徹底しましょう！

食品廃棄物等を原材料とする飼料を給与する場合において、当該飼料が生肉を含む又は含む可能性があるときは、**適切な加熱処理（摂氏70度以上で30分間以上又は摂氏80度以上で3分間以上）**を行いましょう。

豚の様子がおかしいな？と思ったら…

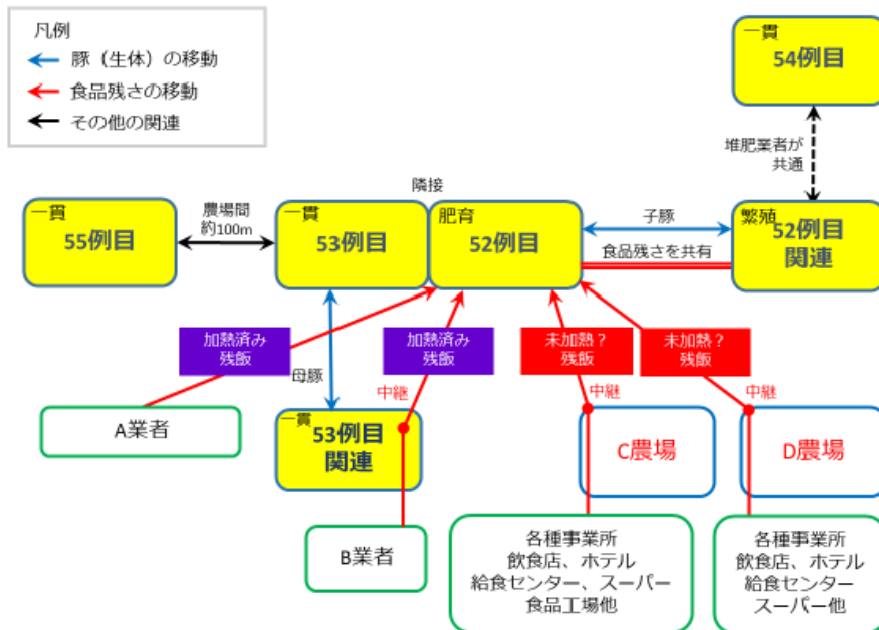
東部家畜保健衛生所

Tel.0475-52-4101

※夜間・休日は転送されますので、必ず5回以上コールしてください

第11回拡大CSF疫学調査チーム検討会の 結果概要について

～感染豚由来の豚肉を含む食品残渣の給与～



- ・ 52例目では食品残渣を使用しており、農場の加熱はしていなかった。
 - ・ また、入手先の一部には加熱状況が不明な調理残渣が含まれており、かつ、ハムやソーセージなどの肉製品を含んでいるものがあった。
 - ・ 感染動物由来の加熱不十分な食品残渣はCSFウイルスの主要な侵入経路の一つと考えられている。
 - ・ 沖縄県では一部の部位や価格差があるものについては県外から流入してくるものもある。
- 仮に豚肉などが国内感染地域から持ち込まれ、加熱不十分のまま食品残渣に混入することがあれば、それを介してウイルスが持ち込まれた可能性は否定できない。

～食品廃棄物等の加熱の徹底を～

- 原材料の内容、加熱状況について確認しましょう。
- 特に動物由来品（肉、ハム、ソーセージ等）が含まれているか確認しましょう。
- 含まれている場合、事前に70℃以上30分間以上、または80℃以上で3分間以上の加熱を計測しながら施し記録しましょう。
- 加熱処理について、計測した記録について、保管しましょう。
- 加熱した飼料原料は加熱前と保管場所を分けましょう。

現在、食品残さ中のウイルスをより確実に死滅させるため飼養衛生管理基準と飼料安全法省令を改正する手続きが進められており、国際基準（攪拌しながら90℃60分以上やこれと同等以上）に基づく加熱処理が求められることとなります。